

# 平成30年度 横浜市立義務教育学校霧が丘学園小学部「交通バリアフリー教室」の実施報告

## はじめに

- 横浜市都市整備局では、福祉の視点からバスへの関心を啓発し、利用を促進するため「交通バリアフリー教室」を行っています。霧が丘学園では、横浜市交通局若葉台営業所と連携し実施しました。
- 霧が丘学園は、JR 横浜線 十日市場駅を最寄駅とし、横浜都心部との接続の良い地域です。
- 駅から離れた霧が丘学園の子どもたちは、駅方面に行く際の乗り物としてバスを身近な乗り物と認識しています。

## 1 交通バリアフリー教室の全体概要

- 交通バリアフリー教室は、横浜市都市整備局が担当する「バスのバリアフリー」に関する座学とともに、実際のバス車両や車いす等を使った体験授業も行われました。
- グループに分かれて、①バス車両を用いた車いす利用体験・介助体験、②バスの乗り方に関する紙芝居及び運転席からの死角の体験、③高齢者疑似体験、④バスのバリアフリーに関する座学を行いました。
- バリアフリーを始め、バスに関する様々な“知識”と、実際の“体験”を同時に行うことで、子どもたちのこれからの生活の中で「活かした知識」として根付くことを期待します。
- 横浜市都市整備局は、④の座学において、バスのバリアフリーの現状や、モビリティマネジメントの大切さを伝えました。



車椅子利用・介助体験



死角体験



バス車両を使った体験



座学

### ■交通バリアフリー教室について

- 【日時】平成30年11月6日(火)  
第1～4校時(8:50～12:10)
- 【対象】霧が丘学園  
5年生1～3組(100人)
- 【内容】①バスを用いた車いす利用体験・介助体験  
②バスの乗り方紙芝居、バスの死角体験  
③高齢者疑似体験  
④バスのバリアフリーに関する座学



## 2 「バスのバリアフリーに関する座学」の内容

- 座学では、「もっと知ってほしいバスのこと」と題して、車いすの方もお年寄りも、「誰もが使いやすい」を目指して取り組んできた、バスのバリアフリーの現状を中心に授業を行いました。
- その中で、バスの利用者が減少していくと「バスが将来、無くなってしまふ」可能性もあることを、マンガリーフレットを用いて伝えました。
- マンガリーフレットを読んだ子どもからは「将来バスがなくなってしまうとお年寄りが困ってしまう」など意見がもらえ、今利用しているバスを大人になっても利用するよう心がけてほしいと伝えました。
- 霧が丘学園は最寄駅まで約2km離れており、ほとんどの子どもが駅へ行くにはバスを利用している様子でした。中には、塾や習い事などで、バスを1人で利用する子どもも見られました。
- 「行き先や状況に応じて、バスを上手に使って暮らす」ことが大切であることを伝え、授業を終えました。

## おわりに

- 今回の交通バリアフリー教室で、車椅子利用・介助体験や高齢者疑似体験を通じて、体の不自由な人にとって、移動することの大変さを肌で感じた子どもがたくさんいました。
- 子どもたちが今まで以上にバスへの関心を持ち、これからもバスを上手に使い、またバスで困っている人をサポートするきっかけとなる「交通バリアフリー教室」となりました。
- また、普段は座る事の出来ない運転席に座ってバスの死角について学んだり、バスのルールや乗り方を学んだり、バスの運転手さんと積極的に交流するなど、バリアフリーの事だけでなく、バスの様々なことを学んでいました。

### ■座学に用いた教材

- ①説明用パワーポイント:もっと知ってほしい「バス」のこと



- ②小学生向けマンガリーフレット



バスの乗り方に関する紙芝居

膝に重りをつけ、さらに目にはゴーグルをかけた状態でバスの乗り降りをおこないました。

